



**MINISTÈRE
DE L'ÉDUCATION
NATIONALE,
DE L'ENSEIGNEMENT
SUPÉRIEUR
ET DE LA RECHERCHE**

*Liberté
Égalité
Fraternité*

Concours externe BAC + 3 du CAPES

Cafep-Capes

Section Langues vivantes étrangères : Japonais

- 1) Exemple de sujet pour la première épreuve d'admissibilité
- 2) Extrait de l'arrêté du 17 avril 2025

Les épreuves des concours externes du Capes et du Cafep-Capes BAC +3 sont déterminées dans [l'arrêté du 17 avril 2025 fixant les modalités d'organisation du concours externe du certificat d'aptitude au professorat de l'enseignement du second degré](#), publié au Journal Officiel du 19 avril 2025, qui fixe les modalités d'organisation du concours et décrit le schéma des épreuves.

CAPES BAC + 3
Sujet 0 / Première épreuve d'admissibilité

Composition en langue japonaise

以下の4つの資料を用いて、「震災の経験とフィクション」というテーマで問題提起をし、その問題について議論する論文を日本語で書きなさい。

資料①

五日のあいだ彼女は、すべての時間をテレビの前で過ごした。銀行や病院のビルが崩れ、商店街が炎に焼かれ、鉄道や高速道路が切断された風景を、ただ黙ってにらんでいた。ソファに深く沈み込み、唇を固く結び、小村が話しかけても返事をしなかった。首を振ったり、うなずいたりさえしなかった。自分の声が相手の耳に届いているのかいないのか、それもわからない。

- 5 妻は山形の出身で、小村の知る限りでは、神戸近郊には親戚も知り合いも一人もいなかった。それでも朝から晩までテレビの前を離れなかった。少なくともみている前では、何も食わず、飲まなかった。便所にさえ行かなかった。ときどきリモコンを使ってテレビのチャンネルを変えるほかは身じろぎひとつしなかった。

- 小村は自分でパンを焼いてコーヒーを飲み、仕事に出ていった。仕事から帰ると、妻は朝と同じ姿勢のまま、テレビの前に座っていた。仕方なく冷蔵庫の中にあるもので簡単な夕食を作って一人で食べた。彼が眠りにつくときにも彼女はまだ、深夜ニュースの画面をにらんでいた。沈黙の石壁がそのまわりに巡らされている。小村はあきらめて、声をかけることさえやめてしまった。
- 10

五日後の日曜日、彼がいつもの時刻に仕事から帰ってきたとき、妻の姿は消えていた。

村上春樹「UFO が釧路に降りる」より抜粋

資料②

片桐はうなずいた。そして気持ちを落ちつかせるために、湯飲みを手にとって茶をひとくち飲んだ。「東京が壊滅するのを防ぎたいとおっしゃいましたね。」

「申し上げました」

「それはいったいどんな種類の壊滅なのですか？」

- 5 「地震です」とかえるくんは重々しい声で言った。

片桐は口を開けてかえるくんを見ていた。かえるくんもしばらく何も言わずに片桐の顔を見ていた。ふたりは互いを見つめあっていた。それからかえるくんが口を開いた。

- 「とてもとても大きな地震です。地震は2月18日の朝の8時半頃に東京を襲うことになっています。つまり3日後ですね。それは先月のこうべの大地震よりも更に大きなものになるでしょう。その地震による死者はおおよそ15万人と想定されます。多くはラッシュアワー時の交通機関の脱線転覆衝突事故によるもので
- 10

す。高速道路の崩壊、地下鉄の崩壊、高架電車の転落、タンクローリーの爆発。ビルが瓦礫の山になり、人々を押しつぶします。いたるところに火の手があがります。道路機能は壊滅状態になり、救急車も消防車も無用の長物と化します。人々はただ空しく死んでいくだけです。死者15万人ですよ。まさに地獄です。都市という集約的状況がどれほど脆い存在であるか、人々はあらためて認識することでしょう」、かえるくん

15 はそう言って軽く首を振った。「震源地は新宿区役所のすぐ近く、いわゆる直下型の地震ですね」

「新宿区役所の近く？」

「正確に申し上げますと、東京安全信用金庫新宿支店の真下ということになります」

重い沈黙が続いた。

「それで、つまり」と片桐は言った。「あなたがその地震を阻止しよう？」

20 「そういうことです」とかえるくんはうなずいて言った。「そのとおりです。ぼくが片桐さんと一緒に東京安全信用金庫新宿支店の地下に降りて、そこでみみずくんを相手に闘うのです。」

村上春樹「かえるくん、東京を救う」より抜粋

資料③

小説家とは、“嘘”を糸に紡いで作品にしていく人間です。

もちろん嘘をつくのは小説家だけではありません。政治家や外交官もそうです。おっと、これは大統領には失礼でしたね。

5 しかし、小説家は他の職業と決定的に異なる点があります。小説家は自身の嘘によって訴えられることはありません。むしろ小説家はそのことによって祝福されるのです。より大きな嘘をつけばつくほど、小説家はより大きな賞賛を手に入れることができるのです。

10 小説家の嘘が一般の嘘と異なるのは、小説家の嘘は“本当のこと”を明らかにすることに寄与するという点です。“本当のこと”を完全に理解することはとても難しいことです。そのために、小説家は“本当のこと”をフィクションの世界へと変換していくのです。変換するには、まずはじめに私たちの中にある“本当のこと”と“嘘”を明らかにしなければなりません。

今日、私は“本当のこと”をお話したい。私が嘘をつかない日は1年のうちほんの数日しかないのですけれども。しかし、今日はそのうちの一日です。

資料④

The infographic is divided into several sections. At the top, a box labeled 'ショック体験' (Shock experience) and '強いストレス' (Strong stress) has a green arrow pointing to a purple starburst containing the word 'トラウマ' (Trauma) and 'PTSD' in red. Below this, a man with glasses and a suit is shown with a speech bubble that reads: 'PTSDは、ショック体験や強いストレスをきっかけに、こころにひどく傷を負うことで発症します。' (PTSD is caused by shock experiences or strong stress, leading to severe mental injury and symptoms). Below this are four panels illustrating symptoms: 1. 'PTSDの症状' (Symptoms of PTSD) with the sub-heading '①トラウマが突然思い出される' (1. Trauma is suddenly remembered), showing a person being hit by a falling building. 2. '②トラウマに似た状況を避けようとする' (2. Trying to avoid situations similar to trauma), showing a person covering their ears while avoiding a thought of a falling building. 3. '③否定的になる' (3. Becoming negative), showing a person looking down with a speech bubble saying '誰も信用できない' (I can't trust anyone) and another saying '全て自分が悪い' (It's all my fault). 4. '④いつも緊張状態にある' (4. Always in a state of tension), showing a person looking nervous while holding a phone, with text describing: '電話が鳴ると飛び上がる' (I jump when the phone rings), '些細なことで苛立つ' (I get irritated by small things), and '眠りが浅くなる' (My sleep becomes shallow).

出典 <https://h-navi.jp/column/article/35029089>

CAPES BAC + 3

Réglementation de la première épreuve d'admissibilité

Extrait de l'annexe de l'arrêté du 17 avril 2025 fixant les modalités d'organisation du concours externe du certificat d'aptitude au professorat de l'enseignement du second degré, publié au Journal Officiel du 19 avril 2025

A. - Epreuves d'admissibilité

1° Première épreuve d'admissibilité.

L'épreuve consiste en une composition en langue étrangère à partir d'un sujet s'appuyant sur un dossier constitué de documents de nature variée. L'épreuve porte sur une question inscrite au programme.

Elle vise à la vérification des connaissances disciplinaires du candidat. Elle permet d'évaluer la maîtrise de la langue et la connaissance des cultures de l'aire linguistique concernée.

Durée : cinq heures.

Coefficient 3.

L'épreuve est notée sur 20. Une note globale égale ou inférieure à 5 est éliminatoire ;